



沼津市文化財 センター通信

Vol.6

2021年7月発行



文化振興課公式FB



沼津市公式Youtube Ch.
(沼津の歴史紹介)



いがた きちよう まがたま 鋳型を使って作られた貴重なガラス勾玉

沼津市の北側に広がる愛鷹山麓では、今から約 2,000 年～ 1,800 年前の弥生時代の終わりから古墳時代の初めにかけて営まれた、大集落が見つかっています。なかでも東部運転免許センター（北神馬土手遺跡・植出遺跡）と新東名高速道路の建設に伴う植出北Ⅱ遺跡



＜沼津市街上空から見た愛鷹山と遺跡の位置＞

の発掘調査では、勾玉に関する大きな発見がありました。

東部運転免許センターの建設に伴う発掘調査では、たて穴住居、掘立柱建物、墓、畑のあとなどが確認されたほか、弥生時代の貴重なガラス勾玉が出土して注目を集めました。それから約 10 年後に実施された植出北Ⅱ遺跡の発掘調査では、ガラス勾玉を作るための鋳型が出土しました。鋳型は土を焼いて作られたもので、勾玉の形をした凹みがあります。ここに溶けたガラスを流し込み、冷やして鋳型から抜き出すとガラス勾玉ができるのです。

北神馬土手遺跡から出土したガラス勾玉は、植出北Ⅱ遺跡で出土した鋳型にピッタリの大きさなので、研究者は北神馬土手遺跡の勾玉と植出北Ⅱ遺跡の鋳型に関係があるのではないかと注目しています。今後の研究に期待される点もありますが、少なくとも愛鷹山では弥生時代に、鋳型を使ってガラス勾玉を作っていたことが分かってきました。

祝 県の有形文化財に指定された
勾玉の鋳型 4 点

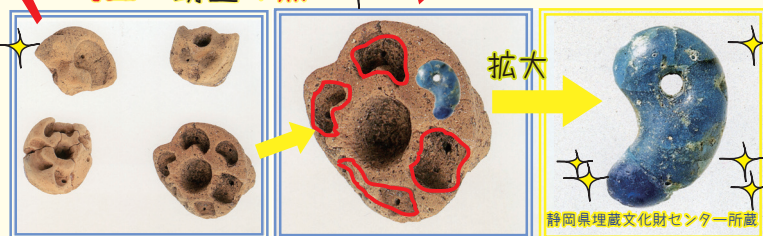
★ガラスの勾玉

弥生時代のガラス勾玉を作る技術は、米作りとともに大陸から日本にもたらされたものです。九州や近畿など西日本の 12 遺跡では、のべ 25 点のガラス勾玉の鋳型が確認されていますが、東日本で出土したのは、植出北Ⅱ遺跡が初めてです。弥生時代の貴重な遺物であり、ガラス勾玉を作るための道具である鋳型 4 点は、令和 2 年 12 月 8 日に

★静岡県の有形文化財（考古資料）★

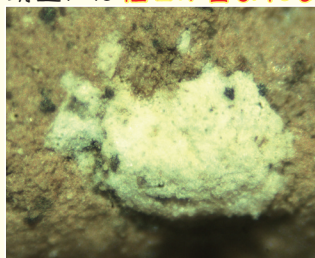
に指定されました。なお、鋳型を顕微鏡で見ると伊豆半島に特徴的な軽石などが含まれることから、愛鷹山周辺部の土を使って鋳型を作っていることも分かってきました。

実物は沼津市文化財センターで展示していますので、是非ご覧ください♪



①周りのくぼみに溶けたガラスを入れ・・・ ②鋳型の中で冷やしたと固めると・・・ ③完成～♪

鋳型には軽石が含まれる



顕微鏡で拡大した軽石
粉っぽく白いことが特徴



当時、ガラスの勾玉は、
財力のある特別な人だけが
持っていました！



こども文化財めぐりの詳細は、
7月に各学校に配布される
チラシや市のHPを見てね♪

